

誰一人取り残さない学校現場へ

令和6年度東葛6市モラルアップ活動の取組紹介

こちらは管内各市におけるモラルアップ活動の実践例です。事例には、各市や各学校の環境や状況により、実施に条件があるものも含まれております。参考資料の一つとしてご覧ください。

松戸市

★校務のICT化★



【今までの取組】

- ・職員会議のペーパーレス化
- ・保護者への配付物はスクリーンを活用
- ・欠席連絡はFormsで受ける

ちょっと工夫

- ・校内授業研究の指導案もTeamsで共有
- ・個人面談の日程もMicrosoftbookingに保護者が入力
- ・日報、マラソンカード、保護者会出欠、指導記録、安全点検簿等もICT化
- ・校務分掌や学習指導に関するデータを共有フォルダで全職員で共有



◎印刷の時間削減 → SSS等が印刷ではなく、〇つけ等を行う時間が増える

→ **先生が子どもと向き合う時間の増加** → **職員も子どもも学校生活が充実！！**

◎紙代、インク代の削減（前年比50%以上、合わせて10万円以上の節約の実績も！）

★風通しの良い職場環境づくり★

【今までの取組】

- ・職員レク大会（ポッチャ、バレーボール、大縄チャレンジ、卓球、焼きそば作り、夏休みうそ作文）
- ・職員お揃いのTシャツ等制作、着用
- ・校内若手研修
- ・年休等を計画的に取得しやすくする、管理職による声掛け

ちょっと工夫

- ・レク大会を、中学校区の近隣校や、地域団体と連携して開催
- ・Tシャツは毎年同じデザインで、好きな背番号を付ける
＝転入職員もすぐに制作可能
- ・自由参加のミニ研修会（体育等の実技研修、ちょっとしたICT活用）
- ・学年からの提案によるボトムアップ型の不祥事根絶研修
- ・休憩スペースの充実



◎職員の連帯感・所属感の向上 → 相談・雑談しやすい人間関係の醸成

→ **職員ウェルビーイング向上** → **職員も子どもも学校生活が充実！！**

◎「第三者の視点」による、不祥事根絶にもつながる！



学校運営の効率化に向けた取り組みの項目別まとめ

時間の有効活用と業務の効率化

- **授業時間:** モジュール時間の削減、短縮日課の増加、5・6 時間授業の日数減など、年間の授業時数を標準時数に調整
- **下校時間:** 下校時間の早期化(朝学習のカット、モジュール時間の変更など)
- **清掃:** 清掃時間の削減と効率化(週 2 回清掃、清掃時間の短縮など)、たて割り清掃
- **職員会議:** 会議の効率化(Teams 活用、会議時間の短縮、資料の事前共有など)
- **事務作業:** 事務作業の効率化(デジタル化、テンプレートの活用、時数計算の自動化など)
- **集金作業:** 教材や写真などの業者への直接申込、インターネットバンキングの活用
- **行事:** 行事の精選・簡略化、準備期間の短縮、PTA やボランティアの活用など

教職員の負担軽減

- **業務分担:** 校務分担の再編、業務の均等化、SSS や支援教員の活用など、教職員の負担軽減
- **会議:** 会議回数の削減、会議時間の短縮、資料の簡素化など、会議による負担軽減
- **研修:** 研修内容の精選、研修時間の短縮、オンライン研修の活用など、研修の効率化
- **書類作成:** デジタル化、テンプレートの活用、校内共有フォルダの活用など、書類作成の効率化
- **残業:** ノー残業デーの実施、退勤時刻の宣言や厳守、残業時間の削減に向けた取り組み
- **メンタルケア:** 若手教員のサポート体制の強化、相談窓口の設置など、教員のメンタルケア

教育の質向上

- **授業:** 習熟度別学習、少人数指導、ICT 活用など、一人ひとりの学習に合わせた指導
- **評価:** 評価方法の見直し、デジタル評価ツールの活用など、評価の効率化
- **教材:** デジタル教材の活用、教科書の見直しなど、教材の充実
- **研修:** 教職員の専門性の向上、チームティーチングの推進など、教員の育成
- **地域連携:** 地域住民との連携、外部講師の招致など、地域資源の活用

その他

- **PTA:** PTA の役割見直し、保護者・地域ボランティアの活用
- **学校運営協議会:** 学校運営協議会との連携強化
- **ICT 活用:** 学校全体での ICT 活用推進

やる気みなぎる「楽しい」学校



パラリンピック競技を
やってみよう

研修

環境

レクリエーションを企画

パラリンピックにちなみ、職員で競技に挑戦

長期休みを利用し、職員間で交流を深めるために、レクリエーション大会を企画しました。パラリンピックにちなみ、「ゴールボール」「ボッチャ」「シッティングバレー」「ガイドランニング」を行いました。職員で競技に挑戦し、バリアフリーの考え方を深めるとともに、普段関わることのない職員ともコミュニケーションも取ることのできる良い機会となりました。

教職員のウェルビーイングを目指して

職務状況の分析

自校でストレスチェックを実施

→現在のストレスの要因や性質を調査

→年間での超過勤務時間を視覚化

働きやすい職場を目指した取り組み

・計画年休制度の導入

〈授業を調整し、平日に休みを取る〉

・完全下校時刻の見直し

〈一律だった時間を、時期に応じて変更する〉

・行事準備日の設定

〈事務作業を集中的に行える日を4日間設ける〉

・研修の充実

〈プロジェクトチームを発足し

校内全体で議論を重ねて実践する〉

①SSS・スクールアシスタントの仕事について

教員が働きやすいようにサポートしていただいています。

- ・授業のサポート（スクールアシスタント）
- ・印刷業務
- ・ワークチェック
- ・カーテンやビブスの洗濯
- ・掲示物の作成
- ・日直業務
- ・教頭、教務等のデータ入力
- ・養護教諭の手伝い
- ・ノートの活用（仕事の依頼）
- ・テスト丸付け
- ・ラベリング
- ・保護者誘導
- ・営繕
- ・来客対応
- ・ポスター掲示
- ・学校事務補助
- ・SSSだよりを作成し、各職員に仕事の依頼を周知
- ・どこに何があるのかがわかるリストを作成

②部活動

各学校で様々な取り組みを行っています。

- ・市のガイドラインに沿って（中）
- ・週3日 午後のみ（中）
- ・11月～2月部活無し（小）
- ・大会前以外は週3日（中）
- ・朝練習なし（小・中）
- ・外部指導員の活用（中）
- ・運動クラブとして、週に1度の活動（小）
- ・冬季を朝部活のみとし、生徒の出席確認を8：45としている（中）
- ・放課後の部活動を週3日としている（中）

③行事の在り方、教育課程について

ICTを活用したり、学校で

- ・テストの回数の工夫（中間をなくす）
- ・行事の当日朝早くの出勤を禁止
- ・運動会予行なし
- ・学校だよりに学年の予定を掲載
- ・音楽部を励ます会をなくし、ロング昼休みに演奏を実施
- ・限られた教科の教科担任制の実施（小）
- ・16：30～17：00以降の電話対応なし（小・中）
- ・モジュールを増やして、授業時数の削減

- 運動会練習を4週間→2週間へ（小）
- 運動会の開閉会式なし
- 表現運動を夏休みの課題に
- 土日の行事の削減
- 検定実施の廃止
- C4 t h（ICT活用）での情報共有
- 授業コマ内で生徒会部会の実施（放課後の情報共有を減らす）
- 保護者対応を勤務時間内に限定（年度初めに保護者に周知）
- 自動採点システムの導入（中）

④学校がよい雰囲気になったモラールアップ活動

職員レクや流しそうめん大会、コーヒーマーカーの設置など、職員の交流の機会を増やしている学校が多かった。こういった機会を増やすことで、教員同士の風通しがよくなったとの声が上がっている。また、それ以外にも若手悩み相談会を実施し、若手が相談しやすい環境を作っている学校もある。

⑤その他業務改善

- 放課後、応答電話対応を行うことで、自分の仕事に集中することができる。
- ノー残業デーの設定などをして、業務改善に取り組んでいる。
- C4 t hダッシュボードシステムの活用で生徒指導や保健室の来室などの生徒情報を一つの画面で見ることができるシステムも活用している。

※内容については、流山市内小中学校での取り組みをまとめたものとなりますので、各学校で行っている取り組みと行っていない取り組みがあります。

令和6年度に実施したモラルアップ活動等実践例の紹介

職場環境について

小学校	・自分の仕事をする時間ではなく、日常のことなど自由に話せる時間、環境の設定をする。
小学校	・休憩中の給湯室の雑談
中学校	・先輩教員等に相談しやすいアットホームな職場環境づくり
小学校	・養護教諭が個々の職員のおすすめのリフレッシュ法を掲示した。
小学校	・ICT機器を活用した情報共有 → みんながチームという学校の風土形成
小学校	・風通しの良い職員室→「おひたし」を心がける。 (お…怒らない、ひ…否定しない、た…助ける、し…指示する)
小学校	・ほうれんそうの徹底とちんげんさいの削減 (ちん：沈黙する、げん：限界まで言わない、さい：最後まで我慢)
小学校	・管理職への相談優先時間の設定
中学校	・定時退勤日を設定することで一週間の仕事の分配を考えるようになった。
中学校	・ウォーターサーバーやコーヒーメーカー等を設置し、働きやすい環境を整備した。

研修・レクリエーションについて

小学校	・若手職員の研修の充実
中学校	・保護者面談等の効果的な対応の研修
小学校	・職員のコミュニケーション研修の一環として情報整理ゲームを行った。
小学校	・職員の親睦を図る親睦会の充実を図っている。
小学校	・時間のある夏休みには、グループワークトレーニングを行い、伝え合う活動を行うことで交流をはかった。
小学校	・夏季休業中の職員レク（今年度はポッチャを実施）
小学校	・学年ごとに話し合い、モラルアップに関する標語の作成を行った。
小学校	・夏季休業中のモラルアップ研修として、「2学期からすぐにできる学級レク」をテーマに職員でレクの体験活動をした。
小学校	・学級で使えるボードゲームの体験
小学校	・年間のモラルアップ研修で、研修を進める人を各学年に分担して行う。
中学校	・動画研修の際に、数人の同僚と一緒に見る。（対話が生まれ、お互いの啓発に繋がる。）

不祥事根絶について

小中学校	・全職員参加の不祥事防止標語作り
小学校	・不祥事根絶に向けたチェックシートの活用で自分の行動を振り返る活動
小学校	・不祥事根絶研修を学団毎に担当し、不祥事の未然防止・根絶に向けて取り組んでいる。
小学校	・直近の不祥事案件をスクリレで全職員に周知
中学校	・個人情報取り扱いや教室管理に関する管理職からの定期的な注意喚起

おすすめの業務改善

小中学校	・欠席や遅刻連絡についてFormsを導入する。
小中学校	・ICTを活用した保護者への連絡配信システム（スクリレ）の導入
小中学校	・校務分掌を定期的に見直し、公平な分担となるようにする。
小中学校	・スクールサポートスタッフの活用
小学校	・教育相談などの日程調整やアンケート等でのフォームスの活用
小学校	・部活動、短期集中型の取り組み
小学校	・公募するものを家庭が直接申請できるようにする。また、注文やアンケートのQRコード生成しデジタル化する。
小学校	・「定時退勤します」「いつもより早く退勤します」の2種類の札を作成。出勤札にかけるようにして、自分自身の退勤時刻を視覚化し、自己管理できるようにした。
小学校	・毎日、設定した時刻に教頭が校内を巡回するとともに、職員に退勤を呼び掛けることで、設定時刻を超えて残業する職員は0となった。
小学校	・学年での共有事項をデータでまとめている。（学年会の会議の時間の短縮）
小学校	・施錠時間の放送（時間の意識の向上）
小学校	・スクリレ等の活用による手紙印刷・配付作業の軽減
小学校	・ICT活用による職員会議資料等のペーパーレス化
小学校	・Teamsを利用した全校朝会
小学校	・担任と専科教員でチャットグループを作成し、専科授業での持ち物等の必要な連絡をLINE WORKS上で行った。→ 中すぐに手が空かないときでも後から見ることができる。一度に複数人で情報共有できる。
小学校	・教科担任制の実施
小学校	・月ごとの定例の会議の内容を精査し、必要のない場合は実施しない。
小学校	・短縮日課の設定
小学校	・昇降口の開錠時刻の周知
小学校	・個人面談等の日程調整をグーグルカレンダーを用いて行う。
小学校	・定時退勤日を各職員が設定し実施 → 時間調整力や業務精選の意識の向上を目的にし、学校全体での業務改善の足がかりとなるように努めている。
小学校	・毎月の学年便りの見直し（廃止や統合）
中学校	・保護者会等の受付作業の電子化（Forms）
中学校	・行事の精選（保護者会の回数減、体育祭の平日開催等）
中学校	・定期テスト後の採点作業の時間確保（部活動を午前中に）
中学校	・朝練等の活動を限定的にすることで、朝の時間に余裕が生まれ必要な情報の共有が円滑になった。
中学校	・チーム担任制を採用したことで、1人で抱え込まずにチームとして動ける。
中学校	・「ToDoリスト」を作成し、優先順位の高いものから作業するよう、業務の見通しを持たせる。
中学校	・委員会統合により、担当教員の複数配置を実施した。
中学校	・デジタル採点の導入

鎌ヶ谷市

鎌ヶ谷市では、モラールアップの取り組みとして、「①コミュニケーションの活性化・②業務改善・③不祥事根絶・④校内の諸問題対応」などの問題に分けて考えている。鎌ヶ谷市の学校の現状として、20代～30代の若手教職員が各校で多くの割合を占めている。そこで、そんな若手教職員が一人で悩むことなく、ベテランの教職員と考えを共有し、関わりを持ち、普段から相談できる環境を構築したく、①コミュニケーションの活性化について実践例を挙げる。

【鎌ヶ谷小学校の実践】

そうめんのつゆグランプリ！！～美味しい！？面白い！？つゆの味は私たちの手で！～

〈ルール〉

- ・作成時間は30分間の1本勝負。
- ・ボールにみんながお玉ですくってすぐに使えるように、完成したつゆを作る。
- ・スマホなどで、つゆについて検索は不可。
- ・家庭科室に用意された調味料・材料を使って作る。
- ・アレルギー対策の為、使用した食材は用紙に記入し表示する。
- ・どこがどのつゆを作ったかは内緒にして投票で一位を決める。

【東部小の実践】

夏の魔法！氷と仲間をかきませよう！！

〈ルール〉

- ・経験年数が異なるようなグループに分かれて、シロップやトッピングの選定を行う。
- ・各グループで独自のかき氷を考え、作る。
- ・作ったかき氷を全員で試食し、感想や楽しさをシェアする。

どちらの研修も「食」を通じて、楽しい体験から教職員のモラールを高める重要な機会となっている。「食」はコミュニケーションを活発にすることができ、共同作業を通じて自然に生まれる交流や信頼関係が、学校全体の雰囲気をも明るくする力を持っている。定期的にこうした活動を行うことで、教職員同士の絆を深め、日常の業務にも活かすことでより良い教育環境を築くことができる。また、「食」を通じた活動は、ポジティブなフィードバックを促進する機会を提供する。試食タイムでは、参加者同士が他者の努力や創意を称えることで、モラールを高める文化が育まれる。このように、食を媒介にしたポジティブな交流は、教職員の自己肯定感を高め、学校全体の雰囲気をも明るくする。

令和6年度 東葛飾管内

モラールアッププロジェクト委員会